

女性センター ニュース



宮城一般労働組合女性センター 2014年4月 No.49
仙台市宮城野区小田原金剛院丁 78-2 金剛院丁SSビル 022-293-3267 E-mail:miyagi-ippan11@salsa.ocn.ne.jp

宮城一般女性センター春の学習会

2014年3月26日(水)

2014年春闘 “女性が元気にはたらきつづけられる職場を社会を！”



職場ではたらくひとり、ひとりのつぶやきに耳をかたむけ、寄り添い、一緒にたたかっていくことが、今求められています。

今年の春闘春の学習会は、総会でお話をいただいた及川顧問に“知って得する労働基準法 Part2”と題して開催しました。7支部 18名と参加者は少なかったのですが、春闘の主な特徴とアベノミクスと日本経済の現状、男女機会均等法と女性の地位の向上、日本型賃金の男女格差、福祉国家スエーデンの女性保護と権利に話が及び、女性の働くルールと実態について話されました。また、顧問が対応している労働相談の実例から、身近な労働法を話していただきました。職場からは、初めて参加するインカレ支部

の方からも職場の実態、連帯して活動することが、必要と話されました。庄子電気支部からは、4月から消費税が上がることで、さまざまな問題が起き、ますます、復興が遅れ、被災地の方たちは、おいて置かれる状況になると話されました。東北大生協支部からは、一時金を廃止し時給に加工したいという提案があり、本来パートとして正規に近い働き方の中で、正規に近い賃金を要求しているのに逆行する提案と受け止めているとは話されました。今期春闘は、引きつづき闘いの緩めず頑張ろうと確認し合いました。



女性ネットみやぎ2周年記念 2014年3月22日(土)

「守ろう！子どもたちのいのち・未来」をテーマに、女性ネットみやぎ二周年のついで鎌仲ひとみさん講演会「原発はもうたくさんだ！」には、会場あふれんばかりの133名の参加がありました。鎌仲さんは、チェルノブイリや福島の実例を調査した内容をわかりやすく画像で示しながら、歯切れ良く元気に話しを進め、私たちの疑問や不安を解きほぐしながら、これからの運動の方向性を示してくれました。事故後の公的対応についても、日本政府が「大丈夫論」を振りまきスピーディなどによる実情を隠して事態を悪化させたこととは対照的に、チェルノブイリ近辺ではどこに行っても公的機関に汚染地図が貼ってあり、住民が確認しながら暮らしていると話し、いつでもすぐに確認できる汚染実態を示す地図を作成すべき、と話しました。また、長期の低線量被曝や内部被ばく問題はこれからが重要で、子どもたちの健診を毎年続ける重要性とその継続的記録の管理が必要、と話しました。

福島原発による被曝放射線量よりずっと低いチェルノブイリで、毎年4500人の子どもたちが国による長期滞在型の保養所を利用し、汚染地域から解放されリフレッシュしており、元気になった子どもたちの画像も示しました。安倍政権の原発政策に対するには、身近な市や町や村を変えていくことが重要。そのために、地元の意識を変える



地道な草の根の運動が大切。みんなで頑張っていきましょう、と呼びかけました。

←女性ネット呼びかけ人のみなさま

2014 国際女性デー第 54 回宮城県集会

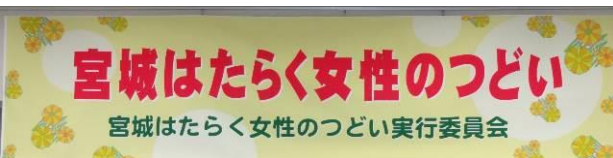
2014 年 3 月 8 日 (土)

「パンと男女平等と平和」の実現をめざして世界の女性たちが、3月8日国際女性デーの行動に立ち上がっています。この歴史と伝統をひきつぎ、第54回国際(国連)女性デー宮城県集会を開催され100人の参加がありました。宮城一般からは、4名の参加でした。

西澤実行委員長の挨拶に続き、ご来賓の県労連副議長の太田さん、日本共産党遠藤県議会議員からお祝いの言葉をいただき、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長からのメッセージの紹介がありました。

今年の宮城県集会では、『放射能汚染と水産物への影響』—放射能汚染問題にどう向き合うか—と題して、東北大学大学院農学研究所教授の片山知史氏に講演していただきました。片山氏は、東日本大震災から3年たち、津波によって大きく改変した沿岸部も、一部をのぞいて、海(漁場環境)と生物(資源)は回復したと判断されるが、それも宮城、岩手、茨城は良いが、福島は見通しがたない。「放射能さえなければ、がんばれたのに」という福島の漁民の悲痛な言葉を紹介し、福島の漁業の復興の遅れを指摘しました。

放射能汚染については、政府・自治体のモニタリング調査では福島県沿岸水深200m以内の海域では、放射性セシウム濃度は2011年5月頃まで1㍈あたり10ベクレル以上あったが同年9月以降は検出限界以下になった。しかし、海底砂泥は30キロ圏内でも200ベクレルを超える地点が仙台湾から房総沖の観測点の半分以上で観られるということです。加えて、福島第一原発内の貯水槽からの汚染水漏出は止まらず、海洋域への流入は見逃ごせないといえます。魚介類への放射能の影響でいえば、2011年4~5月は、あらゆる生物種で基準値を超える放射能が検出されていたが、8月以降になると底魚の一部を除くと減少傾向がみられ、アユ、ワカサギ、イワナ等、淡水魚は高濃度で、イカ、タコは低いという生物種の変化もみられるようになったそうです。タラは海底にいるが、回遊するので、セシウムをためこんで、青森・岩手に帰るので、厄介な魚であると。福島では、沖合の底魚や貝、イカ、タコなどで基準値以下が続き、試験操業での捕獲が開始、宮城県でも、水揚げ可能になっている魚種は増えているが魚価は下がっている現状といえます。ただし、子どもが口にする食べ物は、厳しく基準を抑えるのが良い、「多くの海洋生物をモニタリングして安全性をPRする」という国や県、漁業者の対応であるが、入口管理だけでは消費者の安心を得ることはできない。消費者に近い流通箇所でのチェックや、検定システムといった出口管理を、放射性物質の問題を微量有害物質による魚介類汚染として問題を認識し、水産物・食品管理システムを省庁を超えて検討すべきと話しました。質問も多くで、参加者の関心の高さが伺えました。



はたらく女性宮城県集会 2014年2月15日(土) 人間らしい暮らしってなあに… ワーキング・プアブラック企業私の働き方と 関係あるのかな?

“夢”はありますか?グチを話せる人がいる職場ですか?日常生活の相談ができる同僚はいますか?女性だからと、あきらめていませんか?立ち止まって、働き方について考えてみましょう!

法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科教授の児美川さんに、弱い立場で働く者の視点から，“働きながら生活していく”ことについて、お話していただきました。この日は、大変な大雪で、公共の交通も止まっている吹雪の中、前日から仙台に来ていただき、無事開催することが出来ました。

<参加者感想>児美川先生のお話を聞きながら、大卒で就職できず、さらに各種学校で資格をとって就職したわが子の状況を思った。やっとまずまずのところ職を得たと思ったら、慣れない内から長時間労働、しかも重い役割をこなしている。自分を責めてつぶれないようにサポートしてやりたいし、職場にそんなつながりがあってほしいと願った。根っこは社会の構造の問題だけど50代教員・女)



今後の日程

- 4月12日(土) 炊き出し&なんでも相談会 11:00~(名取美田園第一応急仮設住宅)
- 15日(火) 女性センター幹事会 18:00~(宮城一般事務所)
- 19日(土) 春のパートのつどい 10:00~(戦災復興記念館展示ホール)
- 20日(日) 女性センター幹事会 10:00~(宮城一般事務所)
- 21日(月) 4.21 宮城県集会 TPP からくらし・いのちを守る 14:00~仙台市民の広場
- 5月1日(日) 第85回メーデー&宮城一般交流会 10:00~勾当台公園市民の広場
- 3日(土) 5.3 憲法を活かす宮城県民集会 13:00~仙台国際センター大ホール